

第 29 回中国地方ダム等管理フォローアップ委員会

苫田ダム定期報告書の総括

○「第 29 回中国地方ダム等管理フォローアップ委員会」において、「苫田ダム定期報告書」の審議を行った。

○審議は、「防災操作、利水補給、堆砂、水質、生物、水源地域動態」の 6 項目について、平成 26 年度から平成 30 年度までの期間を主な対象として行った。
各項目に関する審議結果は以下の通りである。

1. 「防災操作」

評価期間である平成 26 年度～30 年度の間に、計 7 回の洪水が発生し、必要な防災操作を行い、所期の機能を発揮している。今後も気候変動の影響によって、水害の更なる頻発・激甚化が懸念されており、ダムの効果を最大限発揮できるよう、引き続き事前放流や特別防災操作などを含む防災操作を行うとともに、下流河川の整備を進められたい。

2. 「利水補給」

所期の機能を発揮し、受益地に大きな貢献をしている。今後もダム貯水位を適切に管理・運用し、ダム下流域への利水補給を行われたい。

3. 「堆砂」

管理上の問題は生じていない。今後も適切な方法により測量等を継続して実施し、堆砂状況を把握されたい。

4. 「水質」

利水上の影響は生じていないが藍藻類の異常繁殖（アオコ）が発生しており、今後悪化することも考えられる。

このため、ダムの管理・運用に必要な水質や底質の調査を継続するとともに、巡視などの日常管理を通じてアオコの発生など水質状況の把握を継続的に取り組まれたい。

また、アオコ発生メカニズムについて、より具体的な把握を行うため、必要な調査について実施し資料を蓄積されたい。加えて、対応可能な方策を予め検討し、必要に応じて適宜実施されたい。

5. 「生物」

生物の生息・生育環境に大きな変化は見られていないが、今後も河川水辺の国勢調査を継続し、生物の生息・生育環境の把握に努められたい。

また、ダム下流河川の環境変化などダムの管理・運用と関係する生物の状況については河川水辺の国勢調査へ位置づけ、継続的な確認が出来るように取り組まれたい。

オオクチバス等の外来種対策については効果を上げているため継続されたい。

保全対策については、日常的な維持管理を通じて効果の継続的な発現に取り組まれたい。

6. 「水源地域動態」

苫田ダムが果たす治水や利水の役割について、ダム下流域への貢献状況を地域に認知していただくような「ダム管理の見える化」を促進されたい。

加えて、新たに始められたダムを活用した水源地域活性化の取り組みが推進されるように地域や各種団体とダムとの関係を構築されたい。なお、関係構築にあたっては地域の人々が主体的に活動を担えるような方策を検討されたい。

以上